

## 課題No.3

# 「四季成りいちごの 生産体制確立による収量確保」



対象： 有限会社 水山養殖場

計画期間：令和5年度

チーム員：◎菊池、平、櫻田、門脇

# 課題の背景(対象の概要)

四季成りいちご「すずあかね」



令和3年から試験栽培中...



気仙沼市唐桑にある試験ほ場(1.5a)

規模拡大



令和5年から  
養液栽培施設52aのうち  
約10aで栽培開始

若手農業者1名を雇用



# 設定した目標

## ○定性的目標

四季成りいちごの生産体制確立により収量が確保され、いちご部門の経営安定化が図られる。

## ○定量的数値目標 四季成りいちご収量

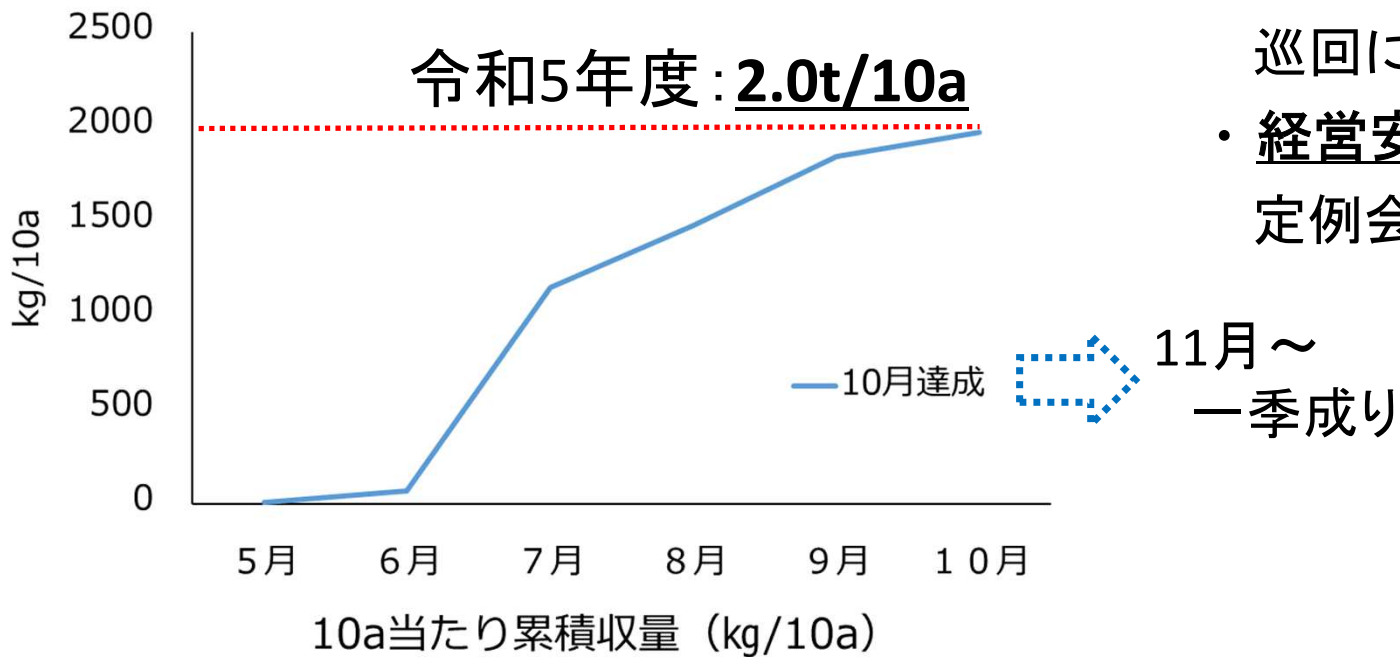
## ○活動事項

### ・栽培技術習得支援

巡回による栽培管理、病害虫防除指導

### ・経営安定化支援

定例会の開催、先進地視察



# これまでの活動状況（栽培技術習得支援）

## ○巡回指導を中心とした技術習得支援

- いちご便り、アザミウマ防除薬剤リスト、環境データのレポートなどを作成した。
- すずあかね栽培マニュアル（農研機構）を用い、病害虫防除、灌水量・EC設定等について巡回指導を行った。

### いちご アザミウマに登録ある農薬一覧

系統名	成分名	農薬	IRAC	アザミウマ類	その他	使用時期
スピノシン系	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤	5	○		収穫前日まで
	スピネトラム	ディアナSC	5	○	クロバネキノコバエ類	収穫前日まで
ピレスロイド系	アクリナトリン	アーデント水和剤	3A	ミカン※1		収穫前日まで
有機リン系	マラソン	マラソン乳剤	1B	ミカン		収穫前3日前まで
ピロール	クロルフェナピル	コテツフロアブル	13	ミカン	シクラメンホコリダニ	収穫前日まで
METI剤/ピラゾールカルボキサミド	トルフェンピラド	ハチハチフロアブル	F:21A I:39	○	うどんこ病	一番花開花まで
イソオキサゾリン系	フルキサメタミド	グレーシア乳剤	30	○	オオタバコガ	収穫前日まで

気仙沼いちご便り【Vol.13】 ←

炭疽病について

気仙沼農業改良普及センター 2023年7月18日

---

※炭疽病は観葉・育苗での発生が多いです。定期的に農薬を散布して防除しましょう！！ ←

仮定植後の育苗期間は、炭疽病の発生が一番多い時期となります。 ←  
今回は炭疽病の発生条件と防除方法について紹介します。 ←

**1 炭疽病について** ←

① イチゴ炭疽病の病徴 ←

【病斑】 ←

- ・葉に薄紫色の小斑点、直径は数mm～4cm程度が生じる。葉柄に陥没した紡錘形～楕円形の黒色病斑が生じる。また、拡大すると葉柄を取り囲み、折れて先端が枯れる ←
- ・多湿条件下で病斑上に鮮肉色（サーモンピンク）の分生子塊を形成 ←

【萎凋症状】 ←

- ・クラウン部が侵されると株ごと萎凋する。発病株のクラウン部は外側から褐色～暗褐色に変色腐敗。 ←

※「もういっこ」に対する炭疽病の抵抗性は「ともおとめ」と同程度かやや弱いです。 ←




写真はいちご通信（農園研）vol30より引用 ←

② イチゴ炭疽病が発生する好適条件 ←

高温（25～35℃）・多湿（長い濡れ時間）・窒素過多 ←

③ 伝染方法 ←

- ・炭疽病の主な感染経路は**水果伝染**です。また、発病株の病斑には胞子が形成され空気伝染を引き起こします。 ←

⇒ 化学的防除と耕種的防除で炭疽病を抑えましょう！！（裏面へ続く） ←

# これまでの活動状況（栽培技術習得支援）



4月～ 株養成のための養液管理



5月 ランナー・花房除去



随時 要防除水準に基づくアザミウマ防除

対象者は、新規に開始した階上施設において、株の養成から収穫までの栽培管理、病害虫防除を行うことができた。

# これまでの活動状況（経営安定化支援①）

## ○定例会の開催

- ・月に1回、施設所有者である気仙沼市を交え、作業の進捗状況の確認や来月に向けた栽培管理について確認・意見交換、販路の検討を行っている。

## ○定例会での協議事項

- ・農地の利用権設定について
- ・収穫実績、出荷先や数量について
- ・作業進捗と今後の栽培管理について
- ・補助事業に関する情報提供

等々



# これまでの活動状況（経営安定化支援②）

## ○先進地視察の開催

- ・ 株式会社リアスタファーム（岩手県大船渡市）
- ・ 有限会社ファーム千葉（宮城県栗原市）
- ・ 株式会社和莓（宮城県亶理町）



■ 知見の活用状況

⇒収量の増加に向けた7月中旬からの日長延長（電照）

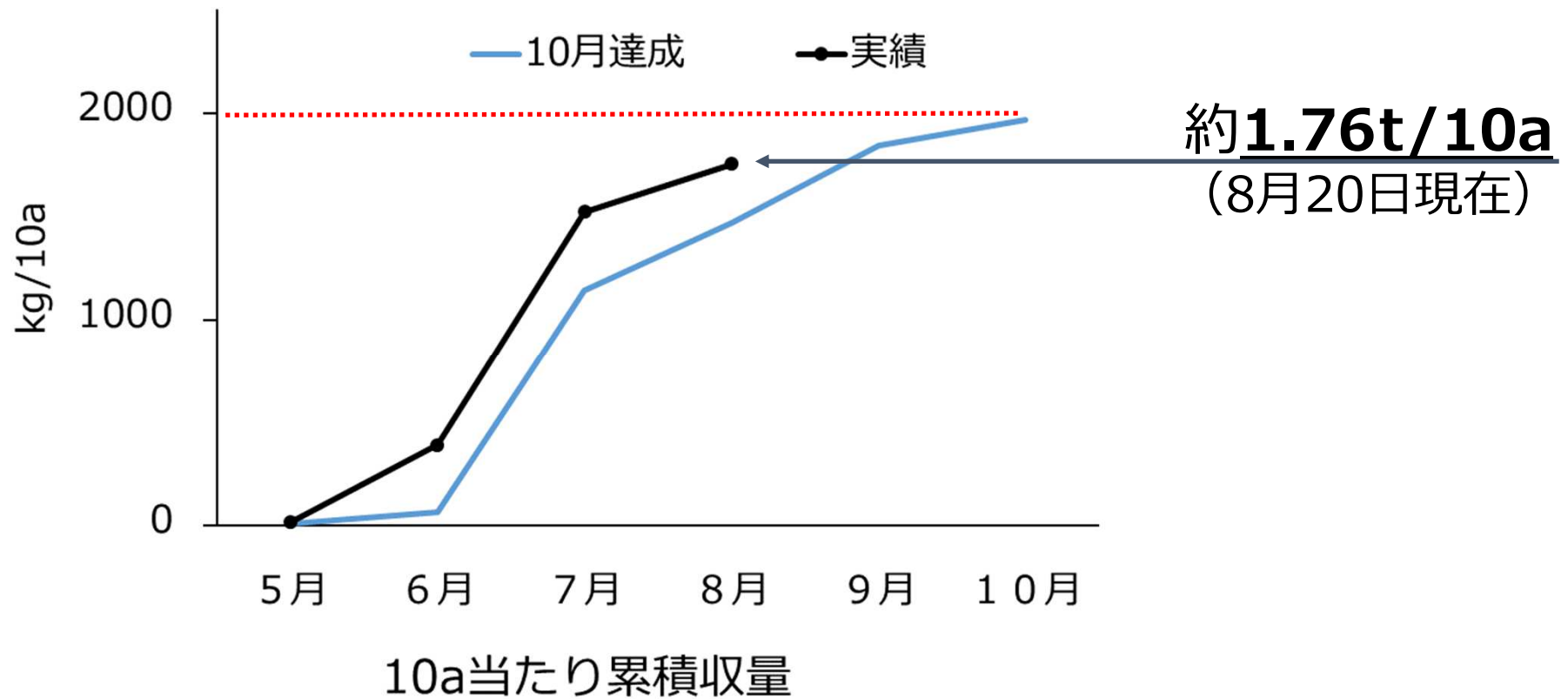


電照による日長延長



# これまでの活動成果

○目標収量の達成状況 定量的数値目標（2.0t/10a）の約88%を達成



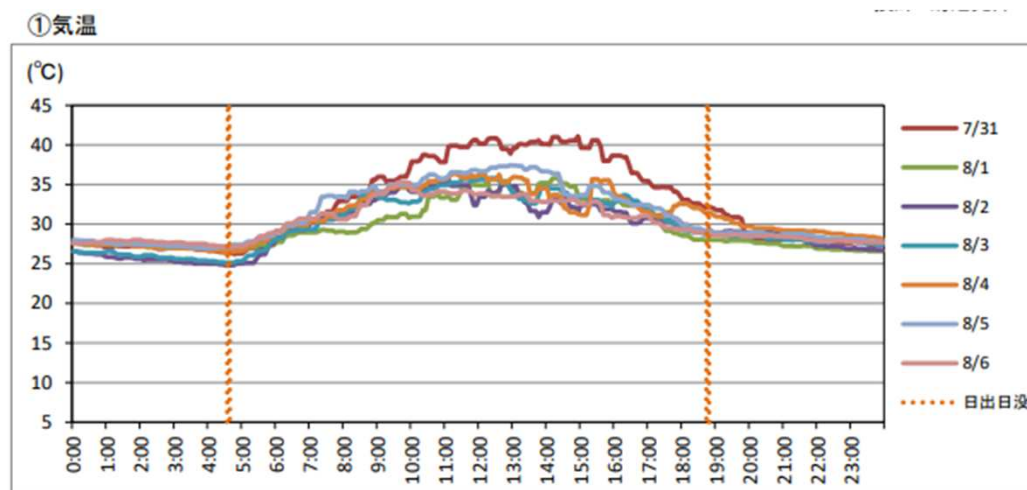
# 今後の課題（栽培技術習得支援）

## ○環境データ（温湿度、ECなど）の活用

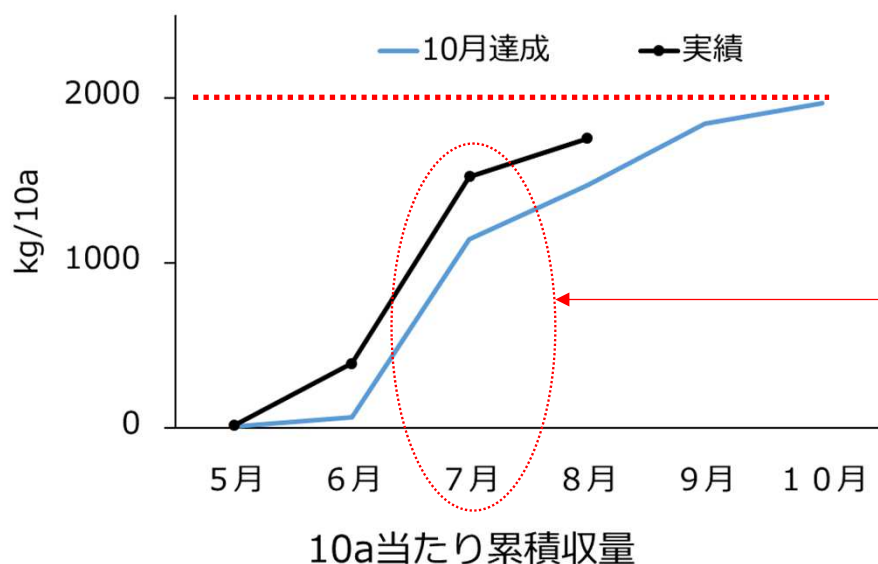
- ・ 目標収量達成に向けた進捗は概ね順調である。
- ・ さらなる収量向上のためには、環境データを活用した栽培管理が不可欠であり、温湿度、EC等環境データに基づく具体的な管理方法の提案が必要である。

## ○高温対策

- ・ 遮光資材の展張等を行っているが、ハウス内温度が40℃を超える日もあるため、高温対策が課題となっている。



# 今後の課題（経営安定化支援）



収量増加に伴う繁忙化

- ・ 四季成りいちごの収穫が増える繁忙期には、ほ場管理、事務の人員が不足し、高単価な販売先に十分な出荷ができないこと、収穫しきれないことなどの課題がある。
- ・ 試験栽培であることから、適正な人員にならなかったため、次作に向けて協議する必要がある。

# 今後の活動（栽培技術習得支援）

## ○環境データ（温湿度、ECなど）の活用支援

環境データに応じた栽培の実践

→温湿度、EC等の環境データと収量の関係性を解析し、増収に向けた管理方法を提案する。

例) ウィークリーレポートやいちご便りの活用

## ○高温対策

高温対策技術導入の協議・提案を行う。

## 今後の活動（経営安定化支援）

繁忙期に適期管理・事務等が行えるよう、時期別の作業量の目安・計画表の作成支援をすることで、対象者が効率的収穫・出荷等の運営が行えるよう支援する。また、販路については、生産量をベースに対象者と改めて協議する。

# 対象者からの評価

気仙沼地区で、おそらく初めての四季成リイチゴの大規模栽培に御指導頂き大変感謝しております。栽培初期からの基本的な栽培方法は大変参考になりました。また普及センターに企画していただいた県内外の数少ない生産者の視察では、弊社単独ではなかなか知り得ない高度な生産技術の情報を得ることが出来ました。

お陰様でここまでの階上地区での栽培は順調で、当初の生産量2tを達成出来る見通しです。担当者の方々にも何度も足を運んでいただき、栽培のアドバイスをいただいた、大変感謝しております。今後とも是非ご指導いただければと思います。

有限会社水山養殖場 畠山哲専務取締役